職業実践専門課程等の基本情報について

学校名				長名		2_0026				
福岡情報ITクリエイ 学校	′ター専門	令和4年4月	1日 阿波	谷 亮治	(住所) 福	2-0026 岡県福岡市博多 2-271-2285	区上川端町14-16			
設置者名		設立認可年	月日 代	表者名		1-0065	所在地			
学校法人大原	学園	昭和54年4月	11日 中2	本 毎彦	(住所) 東	京都千代田区西	神田1丁目1番3号			
分野	 D	忍定課程名	認定学科	名		-6261-7717 上認定年度	高度専門士認定	年度 職	業実践専門課	果程認定年
工業	I	業専門課程	情報IT3年制	削学科	令和 4	(2022)年度	-		_	
学科の目的	情報工学、	情報技術並びにこれ	らのビジネスに関する	教育を施し、人村	格の陶冶を行い	、もって有為な産	業人を育成することを目	的とする。		
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	会に通用す	「るコミュニケーション	・演習の授業(実践力を 力も育成)。最新クラウ エンジニア認定・ORACI	ド技術の「AWS.	」を専門的に学	習(就職後に活かる	ね、個人のスキルアップ せるよう全員履修)。主た	プだけではなく、 よ取得可能資料	、グループワー 各は、基本情報	クを通して社 技術者・応
修業年限	昼夜		要な総授業時数又は総 位数	講事	義	演習	実習	実験		実技
3 年		※単位時間、単位いずれ かに記入	2,580 単位時間 単位	150	単位時間	540 単位時間	2,220 単位時間 単位	0 単位		0 単位時 単位
生徒総定員	生徒実	経員(A) 留学生	三数(生徒実員の内数)(B)	留学生割	合(B/A)	中退率				
120 人	81	Д.	0 人	0	%	2 %				
	■卒業者			1	<u> </u>		J			
	■別職布	望者数 (D) 数 (E) :	21 21		<u> </u>					
	■地元就¤ ■就職率		9		人					
		こ占める地元就職者	の割合 (F/E)							
	■卒業者に	占める就職者の割っ			%					
	■進学者	₿ ₩	95 0		<u>%</u> 人					
就職等の状況	■その他	~	<u> </u>							
	アルバイト									
	(∆±n	c左座衣裳	×1ヶ間子ス合和7年 □ F	1 口味占の棲料	an /					
	(令和 ■ 主 か就服	6 年度至来 哉先、業界等	者に関する令和7年5月	1 日時点の情報	N)					
	(令和6年度									
							㈱システムオーディッ			
			ビス エンジニアリン		(株)、(株)アクトシ	ノーン 有田オフィ	A. (2/1) //	> (14) \ (14) U ·	ふらん、ナック	,,, _,
	(株)FCCテク	クノ、(株)スタッフサー	ビス エンジニアリン		(株)、(株)アクトシ			> (14) C (14) C .	ふらん、ナツク	,,,,
<i>₩</i> - - 2 1 - L 7	(株)FCCテク ■ 民間の記	ウノ、(株)スタッフサー 評価機関等から第3	ビス エンジニアリン E者評価:		(株)、(株)アクトシ	ノーン 有田オフィ 無) (14) ((14) C ·	ふらん、ナツク	
第三者による 学校評価	様FCCテク ■民間のi ※有の場合	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第3、例えば以下について	ビス エンジニアリン E者評価:	グ事業本部	(株)、(株)アクトシ			> may c may c ·	· \$\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
	様FCCテク ■民間のi ※有の場合	ウノ、(株)スタッフサー 評価機関等から第3	ビス エンジニアリン E者評価:		(株)、(株)アクトシ		評価結果を掲載した ホームページURL	> 1141 . 1141 C	ふらん、ナック	
学校評価 当該学科の	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 、例えば以下について 評価団体:	ビス エンジニアリン 三者評価: ^{任意記載}	グ事業本部 受審年月:			評価結果を掲載した) (IA) (IA) (I	-3·50, Τ 97	
学校評価 当該学科の	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 、例えば以下について 評価団体:	ビス エンジニアリン E者評価:	グ事業本部 受審年月:			評価結果を掲載した	> tray tray to	-Si500, 797	, , , , , , ,
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の ※有の場合 https://ww	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 、例えば以下について 評価団体:	ビス エンジニアリン 三者評価: ^{任意記載}	グ事業本部 受審年月:			評価結果を掲載した		жъм, ТУ7	
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合 https://ww	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: ・例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set	ビス エンジニアリン 三者評価: ^{任意記載}	グ事業本部 受審年月:			評価結果を掲載した	2,580 単位		
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合 https://ww	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数	ビス エンジニアリン 三者評価: ^{任意記載}	グ事業本部 受審年月: _it/course/jou	uhou/		評価結果を掲載した		立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合 https://ww	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: 日意記載 imon/school/fukuoka	グ事業本部 受審年月: _it/course/jou_ 習・実技の授業	uhou/		評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位	立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合 https://ww	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: HT意記載 mmon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授	グ事業本部 受審年月: _it/course/jou_ 習・実技の授業	uhou/		評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位	立時間立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合 https://ww	ケノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: HE 意記載 Immon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: .it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・	uhou/ 業時数 実習・実技の	#	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 0 単位 210 単位 210 単位	立時間 立時間 立時間 立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ	(株)FCCテク ■民間の記 ※有の場合 https://ww	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: ・例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修	ビス エンジニアリン 三者評価: 日意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	uhou/ 業時数 実習・実技の D授業時数	#	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位	立時間立時間立時間立時間立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL	様FCCテク ■民間の ※有の場合 https://ww (A:単位	ウノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: ・例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修	ビス エンジニアリン 三者評価: HE 意記載 Immon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	uhou/ 業時数 実習・実技の D授業時数	#	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位	立時間 立時間 立時間 立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 業等と連携した況 で変換が決況	様FCCテク ■民間の ※有の場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sel 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企	ビス エンジニアリン 三者評価: 日意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	uhou/ 業時数 実習・実技の D授業時数	#	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位	立時間立時間立時間立時間立時間	
学校評価 当該学科の ホームページ URL 業等と連携した況 で変換が決況	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 (うち企数による算定)	ビス エンジニアリン 三者評価: 日意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の	uhou/ 業時数 実習・実技の D授業時数	#	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 0 単位 210 単位 210 単位 0 単位	立時間 立時間 立時間 立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 数による算定) 総単位数	ビス エンジニアリン 三者評価: E E E E E E E E E E E E E E E E E E E	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの 掲	uhou/ 業時数 実習・実技の ラ授業時数 受業時数)	#	評価結果を掲載した	2.580 単位 210 単位 0 単位 210 単位 210 単位 0 単位	立時間 立時間 立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL と業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 数による算定) 総単位数 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し ま等と連携したインタ	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの核	uhou/ 業時数 実習・実技の ラ授業時数 受業時数)	#	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 全業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携したインタ 等と連携した実験・実 等と連携した実験・実 等と連携した演習の単	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの核	uhou/ 業時数 実習・実技の ラ授業時数 受業時数)	#	評価結果を掲載した	2.580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL と業等と連携した況 (A、Bいずれか	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必修 数による算定) 総単位数 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した大験・実 等と連携した演習の単 単位数	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの技	whow/ 実習・実技の)授業時数 受業時数)	授業時数	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 可立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL と業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授授業時数 うち企業等と連携し ま等と連携したインタ 等と連携した演習の単単位数 うち企業等と連携した演習の単単位数	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の演習の ーンシップの接	whow/ 業時数 実習・実技の)授業時数 受業時数) 立数	授業時数	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち必修	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した大験・実 等と連携した演習の単 単位数	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の実際で コンシップの授 でも必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の	whow/ 業時数 実習・実技の D授業時数 受業時数) 立数 実習・実技の	授業時数	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等をと連携した況 A、Bいずれん	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち必修	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し 大変験・実 等と連携したインタ 等と連携した大演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の実際で コンシップの授 でも必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の	whow/ 業時数 実習・実技の D授業時数 受業時数) 立数 実習・実技の	授業時数	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等をと連携した況 A、Bいずれん	(B:単位) (B:単位) (B:単位) (B:単位) (A: 単位) (B:単位) (B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H(B:H	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第、例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち必修	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し 大変験・実 等と連携したインタ 等と連携した大演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の実験・ た必修の実際で コンシップの授 でも必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の実験・ た必修の演習の	whow/ 業時数 実習・実技の D授業時数 受業時数) 立数 実習・実技の	授業時数	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等と連携機した況 (A、Bいずれか	機FCCテゲ ■民間の〕 ※有の場合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企 数による算定) 総単位数 うち企業 うち必修 (うち企 (うち企 ① 専修学校の専門 ① 専修学校の専門	ビス エンジニアリン 三者評価: 日本記載 Imon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し ま等と連携したインタ 等と連携した流習の単単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携した ま等と連携したな演習の単単位数 うち企業等と連携したな演習の単単位数 うち企業等と連携したな演習の単単位数 うち企業等と連携したな演習の単単位数	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 業時数 た必修の演習の 一ンシップの哲 で必修の演習の た必修の演習の た必修の演習の た必修の ながらの ながらい な	whow/ 業時数 実習・実技の D授業時数) 立数 実習・実技の D単位数 単位数)	授業時数	評価結果を掲載した	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 全業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 評価関体: Ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企修 うち必修 数による算定) 総単位数 うち企 うち企 うち企 うち企 うちの修学する (うちを企業を必修 ① 専門等数当時 での修業する での修業する での修業する での修業する での修業する できる	ビス エンジニアリン 三者評価: 田のn/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習の授 授業時数 うち企業等と連携し ま等と連携したインタ 等と連携した実際の単 単位数 うち企業等と連携した演習の単 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携した 素等と連携したな演習の単 単位数 「うち企業等と連携した まで表する。 までまた。 まで表する。 までまた。 までなな。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまた。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。 までまたる。	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の)授業時数)受業時数) 立数 単位数 単位数)	授業時数	評価結果を掲載したホームページURL	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 全業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 卵(利えば以下について) 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 (うち企 ① 専售等な教育事件等 その担当な教育の担当な教育の事件等	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した実験・実等と連携した演習の授授素時数 うち企業等と連携したインタ 素等と連携した大家習りませた。 ま等と連携した大家と連携したインタ まである。 まずきと連携した大家と連携したインタ まである。まずきと連携したインタ まずきと連携したインタ まずきと連携したインタ まずきと連携したインタ まずきと連携したインタ まずきと連携したインタ まずきと連携したインタ	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の)授業時数)受業時数) 立数 単位数 単位数)	授業時数	評価結果を掲載したホームページURL	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 全業等と連携機した況 (A、Bいずれか	(B:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 評価関体: Ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企修 うち必修 数による算定) 総単位数 うち企 うち企 うち企 うち企 うちの修学する (うちを企業を必修 ① 専門等数当時 での修業する での修業する での修業する での修業する での修業する できる	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 等と連携した演習 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 等と連携した不演習 事と連携した東 等と連携した大演習 うち企業等と連携した。 ま等と連携したインタ まで表す。 まず、これである。まず、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whou/ 実習・実技の)授業時数)受業時数) 立数 単位数 単位数)	授業時数	評価結果を掲載した ホームページURL	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世 0 世	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL *** 以下のでは、 *** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	(A:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/sei ww.o-hara.ac.jp/sei 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企 数による算定) 総単位数 うち企業 うち企業 (うち企 ① すりまとを必修 (うち企 ① すりまとを必修 ① すりまととを必修 ① すりまととを必要 ② のおと当 ② のおとときをときをときをときをときをときをときをときまる。	ビス エンジニアリン 三者評価: 王意記載 mon/school/fukuoka 等と連携した実験・実 接機業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインタ 素等と連携した大演習の単単位数 うち企業等と連携したインタ まと連携した大演習の単単位数 うち企業等と連携したで まである。	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の)授業時数 受業時数) 立数 単位数 単位数) (専修学校記	無 授業時数 単位数 學置基準第41条第11	評価結果を掲載したホームページURL	2.580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームのでは、 はRL 当該学科の・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(A:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 柳石ば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 うち企業 (うち企 ① ち企業 (うち企 ① なりまりますの修作を表する ② 学士の学位を有	ビス エンジニアリン 三者評価: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の)授業時数)受業時数) 立数 (専修学校記 (専修学校記 (専修学校記	授業時数 學工學等41条第12 投置基準第41条第12	評価結果を掲載したホームページURL	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位 0 単位	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL と業等と連携携した況 (A、B記入)	(A:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企修 数による算定) 総単位数 うち企業 うち企修 (うち企の修学する限を含する限を含する限を含するでは、またのでは	ビス エンジニアリン 三者評価: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の 分授業時数) 立数 実習・実技の の単位数 単位数) (専修学校記 (専修学校記 (専修学校記	授業時数 単位数 收置基準第41条第11 收置基準第41条第11 收置基準第41条第11	評価結果を掲載した ホームページURL 類第1号) 類第2号) 頁第3号)	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 1 0 単位 1 0 0 単位 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等等と連集施状かした況(A、BA)	(A:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 評価関係: ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set ww.o-hara.ac.jp/set j>se	ビス エンジニアリン 三者評価: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の 分授業時数) 立数 実習・実技の の単位数 単位数) (専修学校記 (専修学校記 (専修学校記	授業時数 學業時数 単位数 股置基準第41条第11 股置基準第41条第11	評価結果を掲載した ホームページURL 類第1号) 類第2号) 頁第3号)	2.580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 0 単位 0 単位 0 単位 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームページ URL 業等等と連携施した況 (A、B入) に記入)	(A:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: ww.o-hara.ac.jp/set 時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企修 数による算定) 総単位数 うち企業 うち企修 (うち企の修学する限を含する限を含する限を含するでは、またのでは	ビス エンジニアリン 三者評価: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 非時数 た必修の実験・ でルンシップの授 でも数 た必修の実験・ での単位 た必修の実験・ での単位 ためがらっ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whow/ 実習・実技の 分授業時数) 立数 実習・実技の の単位数 単位数) (専修学校記 (専修学校記 (専修学校記	授業時数 単位数 收置基準第41条第11 收置基準第41条第11 收置基準第41条第11	評価結果を掲載した ホームページURL 類第1号) 類第2号) 頁第3号)	2,580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 単位 1 0 単位 1 0 0 単位 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	
学校評価 当該学科のホームのでは、 出該学科のボームのでは、 URL 業等等と連携施状か に記入) た記入)	(A:単位 (B:単位	カノ、㈱スタッフサー 評価機関等から第: 例えば以下について 評価団体: www.o-hara.ac.jp/sei www.o-hara.ac.jp/sei いけによる算定) 総授素時数 うちを企業 うちを必修 うちを必修 うちを企業 でする限と者 のの修上となり のの修上となり でのの修上となり のの修上となり でもない のの修生となり のの修生とない のの修生となり のの修生とない ののの修生とない ののの修生とない ののの修生とない ののののの ののののののののののの のののののののののののののののののの	ビス エンジニアリン 三者評価: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グ事業本部 受審年月: it/course/jou 習・実技の授業 中数 た必修の実験・の である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	whou/ 実習・実技の の授業時数 の受業時数 の受業時数 の受業時数 の対象 を変形・実技の の対象 を変形・実技の の対象 を変形・実技の の対象 を変形を は、できる	授業時数 學置基準第41条第11 股置基準第41条第11 股置基準第41条第11 股置基準第41条第11	評価結果を掲載した ホームページURL 質第1号) 質第3号) 質第3号) 質第4号) 質第5号)	2.580 単位 210 単位 210 単位 210 単位 0 0 単位 0 単位 0 単位 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	立時間 立時間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 間 立立時間 立立時間 立立時間	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
- ①IT系企業やIT業界団体と連携して教育課程を編成することで、専門的かつ実践的な知識・技術を身に付け、即戦力となる人材を育成する。
- ②システム開発やAI、ネットワーク・セキュリティ分野における学修の中心となるプログラミング技法やシステム・ネットワーク設計、クラウド技術などの教育内容についての意見やアドバイス、業界の動向などの情報を教育課程編成委員会を通じて授業科目に意見反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践修得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- ①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。

- ②意思決定の過程について
- (ア)教育課程編成委員会の開催前、学科の目的に基づき、学科教員が現状の課題等を明確にしたうえで改善案を作成する。
- (イ)教育課程編成委員会ではその改善案について、委員より専門的な意見を収集する。
- (ウ)教育課程編成委員会の開催後、委員会での意見を踏まえ教務責任者、学科教員により改善案を修正、校長が最終的な改善案を決定する。
- (エ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全体の教育過程編成に共有する。
- (オ)次回の教育課程編成委員会にて、最終的な改善案を委員に報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
前田 真	福岡地域戦略推進協議会 事務局次長	令和7年7月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和6年7月1日~ 令和7年3月31日(1年)	1)
太田 真弘	TOPPANエッジITソリューション株式会社 人事部 キャリア開発・教育グループマネージャー	令和7年7月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和6年7月1日~ 令和7年3月31日(1年)	3
永椎 広典	GMOペパボ株式会社 執行役員 福岡支社長	令和7年7月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和6年7月1日~ 令和7年3月31日(1年)	3
阿波谷 亮治	福岡情報ITクリエイター専門学校 校長	_	_
藤田 隆之	福岡情報ITクリエイター専門学校 副校長	_	_
作花 浩聡	福岡情報ITクリエイター専門学校 課長	_	
宮﨑 陽	福岡情報ITクリエイター専門学校	_	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
- (年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))

令和6年度 第1回 令和6年8月8日 16:00~16:50 令和6年度 第2回 令和6年12月12日 16:00~16:50 令和7年度 第1回 令和7年8月7日 16:00~16:50

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- ①卒業制作(自由テーマ、グループ開発)について
- ・テーマ決定の時点で「AIの使い方」と「まず動く最小版(MVP)」を必ず書面化させる。AIが出したコードは、基礎的な読解と動作確認(チェックリスト/簡易テスト/ペアレビュー)で自分たちの目で確かめることを必須にする。
- ・演習では"プロンプトの型"(目的→条件→出力例)を扱い、ツールの利用記録と各自の担当範囲を1枚の活用メモで提出させる。評価は「動く」「理解して説明できる」「安全に使える(ライセンス等)」の三点を基本に据えるとよい。
- ②IT関連企業・団体との連携について
- ・学内で短時間のLT会(5分発表+質疑)を定期開催し登壇経験を積ませてはどうか。希望者は教員が伴走して外部イベント発表へ誘導する。
- ・参加は学生の関心ベースを原則とし強制しないようにする。各自が選んだイベントに参加させ、事前の目的設定と事後の振り返りシートで学びを可視化するとよい。
- ・教員引率のもと、一般の業務系展示会やCIC等のイベントも見学先に含めるとよいのではないか。技術が分からなくても市場・職種理解の機会として活用できる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- システム開発業務および情報職種向けの研修に携わり、さらに多種多様な開発言語と開発ノウハウを有しており、これらの豊富な経験を活かして、企画/設計/実装/テストまでの工程が適任であること。
- ①関連企業と連携し、現場担当者より直接指導を受ける。
- ②関連企業と連携による実習を通じて、学生のより実践的な知識・思考・技術修得と、社会人としての意識改革、専門職と して意識改革を実現する。
- ③関連企業と連携による実習授業を通じて、現場で通用するかどうかという観点から、関連企業担当者が学生の知識・技術の評価を行う。評価内容は共有を行い、フィードバックすることで、適宜教育内容の改善を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業の経験豊富なエンジニアをメンターに迎え、学生が作成した設計に対して、個別のフィードバックやグループ指導を行う。メンターは、設計レビュー、進捗管理、質問対応など、学生の学習を全面的にサポートする。メンターがプロジェクトマネージャーを担うことで、より実践的な学習環境を提供する。実習終了時には企業等の講師による学生の学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。 プログラミング、システム開発演習、授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について質向上のために連携している。

- ① 実習授業内容構築へのサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
		システム開発におけるシーケンス図とクラス図 及びテーブル設計書や画面レイアウトについ て学ぶ	
	2	システム開発におけるテスト仕様書の作成及 び実装について学ぶ	株式会社ニワカソフト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技術を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常にその時必要な実務に 関する知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。なお、こ れらは「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めており、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力を高め るため環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により公平に研修などを受講する機会を与えるものとし、計画的、 組織的、継続的に取り組んでいくこととする。校内、校外において企画する研修は下記の通り。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル等
- ②関連業界の実務家講師を招いた研修会の実施および、外部研修会の参加
- ③教育本部による知識技能及び指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等: アマゾンウェブサービスジャパン合同会社 AWS Academy Machine Learning Foundations

期間: 令和6年12月3日(火)~4日(水) 対象: 情報IT学科教員

機械学習(ML)について説明できるようになる。Amazon SageMaker を使用して機械学習パイプラインを実 内容

装する。

②指導力の修得・向上のための研修等

連携企業等: 株式会社進研アド 研修名: 退学防止セミナー

期間: 令和6年7月2日(火) 対象:情報IT学科教員

最新データや事例紹介を基に中退防止に向けた学力向上への取り組み学ぶ 内容

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等: アマゾンウェブサービスジャパン合同会社 研修名: AWS Academy Machine Learning Foundations

期間: 令和7年12月3日(水)~4日(木) 対象: 情報IT学科教員

内容 AWS クラウドベースのアプリケーションの開発、テスト、デプロイ、デバッグを習熟する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 連携企業等:福岡県精神保健福祉協会 世代を超えたメンタルヘルスの支援~支援者の"困った"を支える~

期間: 令和7年8月5日(火)・令和7年8月8日(金) 対象:情報IT学科教員

講義1 知的障害を伴わない発達障害の生きづらさ、講義2 困った人は実は困っている人、講義3 不安とう 内容

つへの認知行動療法の統一プロトコル、講義4 ケアする人も楽になるストレスコーピング

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を 通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の	0項目との対応
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。③カリキュラムは体系的に編成されているか。④学科の各科目は、カリキュラムで適正な位置づけをされているか。⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。⑦育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。

(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	_

- ※(10)及び(11)については任意記載。
- (3)学校関係者評価結果の活用状況
- 卒業生の支援体制について、適正に運営されているものの、以下の提言を頂戴した。
- ①卒業後も卒業生同士や学校との繋がりは大切であるため、同窓会などのイベントの実施を検討してはどうか。
- ②卒業生サイトを活用して、離職者向けの求人案内を提供してはどうか。等
- 卒業生サイトの運営は、大原学園全体で行っているため、頂戴した提言を学園本部に進言し、サイトの改定について検討し ている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

	名 前	所 属	任期	種別
富岡	美穂	富岡美穂税理士事務所	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉竹	知恵美	イオン九州株式会社	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
新開	盛弘	上川端町四区自治会	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	近隣住民
森部	誠司	株式会社にしけい	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
長野	潤平	医療法人堺整形外科医院 福岡スポーツクリニック	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
真野	素行	社会福祉法人真和会第2板付保育園	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
長谷川	川 正志	社会医療法人青洲会グループ	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和5年4月1日~ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
永椎	広典	GMOペパボ株式会社	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和6年4月1日~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
平田	武志	株式会社Lab.751 HIROSHIMA	令和7年4月1日~ 令和9年3月31日(2年) 令和6年4月1日~ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/ 令和7年10月6日 URL:

公表時期:

- 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、関係業界、地域住民、保護者、教育機関関係者など関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携・協力の推進に資する観点から、積極的な情報提供に取り組む。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

	対 プログロープログラスローの グロー
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①概要 ②教育方針 ③沿革
(2)各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③進級要件 ④卒業要件 ⑤称号付与 ⑥目標とする試験 ⑦主たる試験の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3)教職員	①教職員数 ②教職員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6)学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	_
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

))

URL: https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/

公表時期: 令和7年10月6日

授業科目等の概要

]課程 情報 []	「3年制学科)											
		分類	Į						授業方法			場	所	教	員	
		選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	照	実験・実習・実技		校外			企業等との連携
1	0			ITキャリアデ ザイン I	就職活動に関する基礎知識について学ぶ	1 前	30	1		0		0		0		
2	0			ITキャリアデ ザインⅡ	就職活動における適性試験や面接試験の対 策	1 後	30	1		0		0		0		
3	0			IT基礎知識 I	IT基礎知識(テクノロジ分野・マネジメント分野・ストラテジ分野)について学ぶ	1 前	90	3	0			0		0		
4	0			IT基礎知識Ⅱ	IT基礎知識(テクノロジ分野・マネジメント分野・ストラテジ分野)について学ぶ	1 前	90	6		0		0		0		
5	0				Officeソフト (Word・Excel・PowerPoint) の操作方法について学ぶ	1 前	30	1			0	0		0		
6	0			HTML/CSS	HTMLとCSSを使ったホームページの作成について学ぶ	1 前	30	1			0	0		0		
7	0			Python I	Pythonの基本構文とプログラムの実装について学ぶ	1 前	90	3			0	0		0		
8	0			Python II	Pythonによるオブジェクト指向プログラミ ングを通してクラスの概念について学ぶ	1 前	60	2			0	0		0		
9	0			データベース I	リレーショナルデータベースの概要を学ぶ	1 前	30	1			0	0		0		
10	0			Pythonフレー ムワーク	Djangoを使用したサーバサイドアプリケー ションの仕組みについて学ぶ	1 後	120	4			0	0		0		
11	0			クラウド技術 I	クラウドの概要とAWSを利用したクラウドコ ンピューティングの実装方法について学ぶ	1 後	60	2			0	0		0		
12	0			Java	Javaの基本構文とオブジェクト指向プログ ラミングについて学ぶ	1 後	90	3			0	0		0		

				Т	1	1				1		 _
13	0			JavaサーブレットとJSPを使用するサーバサイドプログラミングについて学ぶ	· 1 後	90	3		0	0	0	
14	0		データベース Ⅱ	SQLの基本文法とリレーショナルデータベースの設計と実装について学ぶ	· 1 後	60	2		0	0	0	
15		0	資格取得講座 A	基本情報技術者試験 科目B試験に合格する ための学習をおこなう	1 後	60	2	0		0	0	
16		0	資格取得講座 B	AWS Certified Cloud Practitioner に合格するための学習をおこなう	i 1 後	60	2	0		0	0	
17	0		ITキャリアデ ザインⅢ	就職活動における適性試験や面接試験の対策	2 前	30	2	0		0	0	
18	0		Javaシステム 開発	Javaフレームワークを利用したシステム開 発演習	2 前	120	4		0	0	0	
19	0		JavaScript	JavaScriptを学び、動的なWebページを作成する	前	60	2		0	0	0	
20	0		AIクラウドプ ログラミング	AWSのAIサービスを利用したプログラムの実 装方法について学ぶ	2 前	60	2		0	0	0	
21	0		先端クラウド システム開発 I	AIを活用したシステムに関して学ぶ	2 前	90	3		0	0	0	
22	0		先端プログラ ミング言語	Go言語の基本文法、ネットワークプログラミング、GUIプログラミングについて学ぶ	· 2 前	60	2		0	0	0	
23	0			ユースケース駆動設計によるオブジェクト 指向分析設計について学ぶ	2 後	90	3		0	0	0	
24	0		開発総合実習 I	システム開発における企画立案、ユース ケース図及びロバストネス図の作成について学ぶ	2 後	90	3		0	0	0	
25	0		開発総合実習 Ⅱ	システム開発におけるシーケンス図とクラス図及びテーブル設計書や画面レイアウト について学ぶ		90	3		0	0	0	
26	0		開発総合実習 Ⅲ	システム開発におけるテスト仕様書の作成 及び実装について学ぶ	2 後	120	4		0	0	0	
27	0		仮想化コンテ ナ技術	コンテナ技術、Dockerについて学ぶ	2 後	60	2		0	0	0	

		合	ā†	4	0 科	目				2910	単位	ī (7	4単位	立時	間)
40		0	卒業前特別講 座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	3 後	30	1	0			0		0		
39		0	資格取得講座 E	シスコ技術者認定試験CCNA に合格するための学習をおこなう	3 前	60	2		0		0		0		
38	0		先端クラウド システム開発 Ⅱ	Firebaseの基本機能を理解してサーバレス アプリケーションの構築方法を学ぶ	3 前	90	3			0	0		0		
37	0		モバイルアプ リケーション 開発	Flutterを利用してハイブリッドモバイルフ プリ開発をおこなう	7 3 前	120	4			0	0		0		
36	0		サーバレスコ ンピューティ ング	サーバレスコンピューティングに関する <i>基</i> 礎を学ぶ	基 3 前	120	4			0	0		0		
35	0		クラウド技術 Ⅱ	AWSでのアプリケーション開発の基礎を学習する	3 前	90	3			0	0		0		
34	0		ITキャリアデ ザインV	社会人に必要なビジネスマナーについて ぶ	≠ 3 前	30	2	0			0		0		
33	0		卒業制作Ⅲ	システム開発におけるテスト仕様書の作品 及び実装について学ぶ	3後	120	4			0	0			0	0
32	0		卒業制作Ⅱ	システム開発におけるシーケンス図とクラス図及びテーブル設計書や画面レイアウトについて学ぶ		90	3			0	0			0	0
31	0		卒業制作I	システム開発における企画立案、ユース ケース図及びロバストネス図の作成について学ぶ	3 後	90	3			0	0		0		
30	0		ITキャリアデ ザインⅣ	志望業界の時事について情報収集をおこない自身の考えをまとめる	〕 前	60	4		0		0		0		
29		0	資格取得講座 D	オラクル認定 Java Silver に合格するため の学習をおこなう) 2 前	60	2		0		0		0		
28		0	資格取得講座 C	LinuCレベル 1 (101試験、102試験)に合材 するための学習をおこなう	3 2	60	2		0		0		0		

	卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件:	下記に定める授業時間(単位)の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。 2,580時間	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法:	授業は、講義・演習・実習もしくは実技のいずれかより又はこれらの併用で行うものとする。 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。 授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP (Grade-Point) を与える。 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。	1 学期の授業期間	22 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。